

二〇二〇(令和二年)度 金沢学院短期大学 入学試験問題

一般入試Ⅰ期(一日目)

二〇二〇年一月三十日(木)実施

国語

I 注意事項

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから14ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答用紙は、マークシート用紙と記述用解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答番号は10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は記述用解答用紙」と表示がありますので、記述用の解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。

人手不足、人口減少に直面する日本においては、^(注1)政府の新方針の下で今後、外国人の流入が本格化することが想定されます。当面は人手不足の分野を中心とした受け入れになるものの、国内での受け入れ体制の充実とともに、高度人材や留学生、起業家など、幅広い分野での外国人の増大が期待できます。2017年末の在留外国人の数は増加しつつあるものの、256万人と総人口の2%弱に過ぎず、先進国の中では(a)割合となっています。2020年代には620万人の人口減少が予測され、若い働き手の不足が一層深刻になることを考えれば、日本に在住する外国人の数は増えることはあっても減ることはないでしょう。

では外国人の増加によつてどのような変化、とりわけ(ア)経済的な変化が生まれるでしょうか。

まず、人手不足解消への寄与です。政府は14分野における外国人労働者の受け入れを発表しましたが、14分野にこだわらない旨の報道がなされています。製造業、サービス業等においても人手不足は深刻化しており、そうした分野での受け入れが行われる可能性もあります。受け入れの条件として考えられるのは、受け入れる外国人に対して正社員として安定的な職、昇給するような職かどうか一つの基準となり得ます。またそのための受け入れの条件として一定レベルの日本語能力と職務能力や職歴も必要とされるでしょう。

外国人労働者は世界的に起業意欲が高いことで知られています。当初は企業に働いていても、日本での成功を夢見て起業する人たちが増加するでしょう。また外国人自身のみならず、日本人とのパートナーシップによる起業や、また外国人の持つ日本人にない経験やネットワークを活用した起業の可能性もあります。^①テンケイ的な外国人の起業はレストランや貿易関係ですが、IT時代には従来とは異なる起業も生まれる可能性があり、新たな産業、経済の活性化に^②コウケンする可能性があります。

外国人が増えるとならば彼らを対象とするビジネスも始まるでしょう。外国人住民の多い東京新宿区では、エスニックレストランだけではなく、生活雑貨、旅行業、メディア、通信業、さらに銀行業も生まれています。さらに外国人が日本人に対して提供するビジネスも生まれます。料理店だけではなく、ダンス、音楽、スポーツ、語学など、従来、日本人が教え、携わっていた分野に、外国人自身が直接、携わり、新たな本場の文化を活用したビジネスも増えるでしょう。また外国人の増加に刺激されて、日本人の異文化理解が促され、新たな教育や文化活動が活発化する可能性もあるでしょう。

地方都市においても外国人の起業などの経済活動が増えることで、世界とつながるビジネスが発展すれば、これまで大都市に流出していた国際的なビジネスを志向する日本人の若者の地元での就職・定着化へとつながるかもしれません。また外国人と日本人の間の最大の課題であるコミュニケーションにつ

いて、新たなITツールの発展がその橋渡し役をする可能性もあります。単なる日常会話に留まらず、企業においても外国人と日本人社員とのコミュニケーションを支援するITシステム構築も本格化するでしょう。

日本の歴史を振り返れば、日本文化のイノベーションの多くは渡来人がもたらし、異文化との接触によって育まれた事実があります。外国人受け入れは単なる人手不足対策ではなく、多様性の推進によるイノベーションの発展こそがその③シンカといえるでしょう。

現在、自治体を中心に〈やさしい日本語〉が広がりを見せてつづいています。自然災害の多い日本において、外国人に適切に情報を伝えるための手段として考案されました。その後、〈やさしい日本語〉は、災害時のみならず平時の在住外国人への情報提供手段としても研究され、行政情報や生活情報、毎日のニュースの発信へも活用されるようになりました。とりわけ自治体では積極的な取り組みが行われる例が増えています。8万6000人の外国人が暮らす横浜市では2013年に庁内検討会を設置し、外部有識者の協力を得ながら、〈やさしい日本語〉の基準を作成しました。市役所の職員に対して〈やさしい日本語〉を使うことについての研修も行われています。

日本に住む外国人の多くはアジア人であることを考えれば、日本人と外国人のコミュニケーションの手段として、英語が共通言語になり得るとは限りません。一方、外国人にとっても日本語の習得は（ b ）、流暢ちゅうちやうに日本語が話せ、読み書きができる人々は必ずしも多くありません。そうした状況で共通言語として考えられたのが〈やさしい日本語〉です。

〈やさしい日本語〉は今後、どこまで広がりを見せるでしょうか。自治体だけではなく、病院、学校、商店やレストラン等、外国人が増加している場所において全て〈やさしい日本語〉が導入される可能性があります。そうなるかどうかは、一般社会での〈やさしい日本語〉についての認識の向上とともに実際に外国人がそれを求めていることが明確になるかどうかでしょう。

さらに今後は義務教育の教育カリキュラムに「異文化コミュニケーション」が導入される可能性もあるでしょう。日本人として外国人とのコミュニケーションを持つことが日常化する時代に備え、子どもたちが異文化コミュニケーションを学ぶことも必要となります。その際、外国人とのコミュニケーションの重要なツールとして〈やさしい日本語〉が取り上げられることもありえるでしょう。〈やさしい日本語〉を学ぶことで外国人の視点に立った考え方も、その見方についての視点が養成され、日本語を客観的に学ぶことにおいても役立つ可能性があるでしょう。

ITの推進と〈やさしい日本語〉は同時並行して進めるべきであり、そうすることによって利便性はさらに高まります。パソコン、携帯の利用の拡大とともに、日本人でも難しい漢字を書くことが苦手な人が増えています。そうした時代に、ITを活用することで、外国人住民が絵の表示や〈やさしい日本語〉での表示を選択することによって、日本人と意思疎通を行うことなどが考えられます。その意味で、〈やさしい日本語〉とITとの連携が一層④モサクモサクされ

るべきでしょう。

今後、企業内でも〈やさしい日本語〉の導入が進む可能性があります。従来、日本人のみの雇用を前提としていた企業では、権威主義的で透明性の低い組織文化の存在や組織内の文書が難解な日本語で書かれていたり、文書化されていないさまざまな^⑥キハンがあることが外国人にとって高いハードルとなっていました。また「^c」やノンバーバルコミュニケーションなど、^(注2)ハイコンテキストのコミュニケーションが重視される傾向がありました。外国人社員の増加は、企業の中でのコミュニケーションのあり方を平準化されたユニバーサルなものへと変容させるきっかけにもなり得ると考えられます。

単一的な価値観、経験の中で強みを発揮してきた日本型経営の限界が指摘される中で、多様性を尊重することによるイノベーションの重要性が唱えられています。〈やさしい日本語〉が多様性の中での意思疎通を行うための重要なツールとなるでしょう。

〈やさしい日本語〉の導入は陰影に富んだ日本語の変質と嘆く人がいるかもしれませんが、しかし、その一方で、誤解が少なく無駄のないコミュニケーションはとりわけビジネスの場面では歓迎されるでしょう。⁽¹⁾〈やさしい日本語〉は在住する外国人の増加に伴い開発されたツールですが、それ自身が日本社会の組織や文化のあり方にも相互に影響しあつて発展していくのではないのでしょうか。

(毛受敏浩「移民受け入れに向かう日本と〈やさしい日本語〉の可能性」による。一部改変。)

(注) 1 政府の新方針——政府は、2018年6月の経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)において、「移民政策とは異なるもの」との但し書きはあるものの、実質的には外国人の本格的な受け入れを示唆する新たな方針転換を打ち出した。

2 ハイコンテキスト——high-context(英)。話し手と聞き手との間の前提となる文脈(言語や価値観、考え方など)や文化的背景が非常に近く、共通性が高い状態をいう。

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は

1

 ～

5

。

① テンケイ

1

① 「万物はルテンする」という格言。 ② 電子メールに別のファイルをテンプする。

③ 宗教上の基本となるキョウテンを読む。 ④ 山奥の村に人家がテンザイしている。

⑤ 先生に褒められてウチョウウテンになる。

② コウケン

2

- ① 悪事を犯したケンギをかけられる。
- ② SF小説のケンシヨウに応募する。
- ③ 病院で定期的にケンシンを受ける。
- ④ 長年の功績をケンシヨウする。
- ⑤ 老人をケンシンの的に介護する。

③ シンカ

3

- ① 都合よく他人に責任をテンカする。
- ② 好景気でカブカが上昇している。
- ③ 特別なシンカを遂げた動物が棲む島。
- ④ 取り返しつかないサイカに遭う。
- ⑤ 自動車を駐車するキョカを得た。

④ モサク

4

- ① 文学の研究書のサクインを利用する。
- ② 試合に勝つためにサクリヤクを練る。
- ③ 過酷な労働によりサクシュされる。
- ④ 来年度予算を大幅にサクゲンする。
- ⑤ 頭の中がサクランしてはつきりしない。

⑤ キハン

5

- ① 注文のあった商品をハンソウする。
- ② 雄大な山に囲まれたコハンにある別荘。
- ③ 江戸時代の浮世絵のハンガを鑑賞する。
- ④ 先輩が下級生のモハンとなっている。
- ⑤ 隣の町の商店がハンジョウする。

問2 空欄（ a ）（ ・ ）（ b ）に入る語句として、それぞれ最も適当と思われるものを、次の①～⑤の中から一つずつ選べ。

解答番号は a 〓 6、 b 〓 7。

- (a) ① ① 極端に少ない ② ② 極端に多い ③ ③ まずまずの ④ ④ 瞳目に値する ⑤ ⑤ 平均的な数の
- (b) ① ① 極めて易しく ② ② 極めて難しく ③ ③ 人気があり ④ ④ 魅力がなく ⑤ ⑤ 平均的な難易度で

問3 空欄（ c ）にはある慣用句が入るが、最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 百聞は一見に如かず ② 虫の息 ③ 一蓮托生 いちれんたくしょう ④ 阿吽の呼吸 あうんのこくそく ⑤ 同床異夢

問4 傍線部（ア）「経済的な変化」とあるが、次の①～⑤の中で、外国人の増加によって生じる「経済的な変化」とは違うものを、一つ選べ。

解答番号は 9。

- ① 起業意欲が高い外国人労働者が増え、日本での成功を夢見て起業する人たちが増加する。
- ② 人出不足の製造業、サービス業等においても、外国人労働者の受け入れが行われる可能性がある。
- ③ 外国人労働者を対象とするビジネスも始まり、外国人が日本人に対して提供するビジネスも生まれる。
- ④ 外国人自身が直接携わるような、新たな本場の文化を活用したビジネスが増える。
- ⑤ 日本人の異文化理解が促され、外国人のものの方についての視点が養成される。

問5 本文全体を読んで、次の①～⑤のそれぞれの文について、「やさしい日本語」に関する筆者の考えに当てはまるものにマークシート用紙の①、

当てはまらないものにマークシート用紙の②をマークせよ。解答番号は① 、② 、③ 、④ 、⑤ 。

- ① 「やさしい日本語」は、自然災害の多い日本において、外国人に適切に情報を伝えるための手段として考案された。
- ② 「やさしい日本語」よりも英語の方が、日本人と外国人のコミュニケーションの手段として共通言語になり得る。
- ③ 子どもたちが「やさしい日本語」を学ぶことで、日本語を客観的に学ぶことにおいても役立つ可能性がある。
- ④ 組織内の文書が難解な日本語で書かれている企業では、「やさしい日本語」の導入は高いハードルとなっている。
- ⑤ 「やさしい日本語」を導入することは、陰影に富んだ日本語が変質する可能性があり、嘆かわしいことである。

問6 本文の構成や内容の説明として最も適当と思われるものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 。

- ① 前半では日本社会での外国人労働者の受け入れの問題点をいくつか述べた後、後半ではその対策として「やさしい日本語」の導入の可能性を論じている。
- ② 初めは自然災害時に外国人に適切に情報を伝えるための手段として考案された「やさしい日本語」が、外国人に受け入れられていく現象を段階的に説明している。
- ③ まず日本の人手不足について述べた後、次に外国人の受け入れについて論じて、最後に「やさしい日本語」の導入を主張している三段構成である。
- ④ 前半では外国人の受け入れによる日本社会の変化や効果について述べた後、後半では「やさしい日本語」の可能性や日本社会への影響を論じている。
- ⑤ 日本社会における外国人労働者の流入と「やさしい日本語」の導入とを比較し、その利点や両者の違いについて具体例を挙げながら分析している。

問7 傍線部(イ)「やさしい日本語」は在住する外国人の増加に伴い開発されたツールです」とあるが、「在住する外国人の増加」と「やさしい日本語」の導入は、日本社会にどのような変化をもたらすと筆者は考えているか。本文全体を踏まえながら、「イノベーション」と「コミュニケーション」の語を用いて、60字以内でまとめよ(ただし、句読点を含む)。解答は 。

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。

涼子は、幼い子どもと二人で街中のアパートまちなかに住んでいたが、ガンが見つかり、子どもを実家に預けて入院することになった。病院は高台に建っており、近くの公園の横には四千五百年頃前、縄文時代の貝塚があったことを示す碑が立っている。入院中に外泊が許されたとき、涼子は文子に会う。文子は、涼子より二歳年下で家が近く、小学生のとき通っていたそろばん塾も一緒だったので、一緒に行き帰りしていたが、中学生からは付き合いがなくなっていた。たまたま道で出会っても、なつかしさを感じるわけでもなく、そうかと言って知らない顔もできないという億劫おっくうな相手だった。

気がつくのが、遅かったの。ここまで気がつかずにいたなんて、のんきものんき、信じられないって、病院の先生にも言われた。まあ、どこか抜けているのは昔からだから、今更、しょうがないんだけど。

わざと、病状が重いもの、と文子が思いこむようなことを言ってやった。表情も声も、作りものではなく、平静ではないのが、文子を深刻な気持ちにさせないはずもなかった。(ア)涼子自身も、自分で言いながら、こわくて、逃げ出したくなっていたのだ。

涼子が笑顔を作り続けているので、文子も笑顔のままだった。

じゃ、お宅にいけそうな時があったら、電話をさせてもらおうわ。

待たせているタクシーを振り返りながら、涼子は言った。強い日射しに疲れを感じた。

あの……待って、と文子がうるたえた声を出した。そんなことだったら、うちに来てもらうなんて悪いわ。あの病院なら近いんだもの、こちらからうかがうわよ。あしたにでも、行くわ。

あしただなんて……、でも、うれしいな、本当に来てくれるの？

ええ、わたしなんて、どうせ暇なんですもの。そうね、あしたっていうのは、もしかしたら無理かもしれないけど、二、三日うちには必ず、行かせてもらうわ。近いんだもの、なにしろ。

(イ)文子は自分に言い聞かせるように、何度も頷うなづきながら言った。

病棟と病室の番号を文子に教え、待ってるわ。楽しみにしているから、と涼子は言い、文子は、まかせといて、という笑顔で答え、それで別れた。

文子の見舞いを、涼子は疑ってはいなかった。他愛もない思い出話を、期待さえ、していた。いつ文子が来てもいいように、朝から、簡単な化粧もしてお

いた。二日、三日、四日、と待った。文子は来なかった。一週間経った時、涼子は諦めた。文子はあの場では、女の子同士の慰め合いの気持で、思わずあ言わずにはいられなかったのだろうが、いざ病院に行くとなると、どうにも病気がガンなのでは、こわくなってしまったのだ。涼子自身の口から、涼子は悲観的な状態なのだとも聞かされている。病気のこととは分からないが、あれだけ元氣そうにしているも、どんな急変があるか、年寄りならまだしも、まだ若いのだから、予想がつかない。② わざわざ、死の匂いを嗅ぎに行くこともない。せつかく、自分の方は何事もなくすんでいるのに。

それはそうだと涼子にも思えるのだった。わたしだって、この程度のつながりだったら、のこのこ、こんなところまでガンという病気を見に来たりはしないだろう。

それから二か月経って、涼子は退院した。文子のこととは忘れていた。転移の心配は、まず、ないだろう、と言われ、うれしくて、足が浮き上がるような退院だった。両親の家に戻り、さあ、返せという勢いで、子どもを自分の体に引き寄せた。子どもははじめは少し恥ずかしがっていたが、すぐに涼子の体をくまなく嘗^なめまわすように、つきまとって離れなくなった。

まだ、月に一度、病院に行く必要があった。退院したっていうことは、一応、もう普通に働いてもいいっていうことじゃないの、と涼子は両親に言ったが、急ぐことはない、当分は家でゆっくり体を休ませた方がいい、と子どもの身柄と共に、簡単なことでは、両親は涼子から手を離しそうにもなかった。涼子もそして、実は、どうにでもなるがいい、という気持にもなっていた。死ぬことに比べれば、どうなっても大した違いがあるわけではなかった。家賃を収め続けていたアパートも、母親に言われて、引き上げることにした。今度は、Iで、おひさまぐらいはよく当たるアパートを探せばいい、と母親が言うのを聞き、あつさり今までのアパートから離れる気持になってしまった。

母親と二人で、アパートに置いてあった荷物を片づけに行った。その部屋で聞こえる物音は、以前と少しも変わっていないかった。隣の主婦が、子どもたちに向かって怒鳴り散らしていた。古い、古い時代から、主婦のその声を聞き続けてきたような気がした。母親と顔を見合わせ、涼子は、ほら、あの声、と微笑みながら教えてやった。母親は溜息^{ため}まじりに頷き返した。

アパートには出入りできなくなったが、涼子は病院に通っているので、坂と縁がなくなったわけではなかった。病院の帰りに、必ず、公園に立ち寄り、イチョウの木の下に立って、四千五百年前の海を眺めた。風が吹き渡る海岸に立ち続けた。アパートの屋根は、そこからは見えなかった。ちょうどそこから辺は、入江の波打ち際、海水が透き通り、光の粉が狂おしく舞い踊っているように見える。そこから海は、水平線に青い色を深めながら拡がっていく。

その海を充分、眺めてから、涼子はそれと気づかないうちに息を深く吸い込み、長い坂を下り、海の底に向かって行った。

季節は、冬になっていた。涼子がいつものように、海を公園から眺め下ろし、息を吸い込んで、公園を出ようとしたところで、坂を登ってきた文子と出会

った。二人の子どもを連れた文子は、ほかの見知らぬ母子と一緒にだった。互いの子どもが友だちでもあるのだろう。くつろいだ、楽しそうな顔で、文子はおしゃべりに気を取られていた。涼子に気づかずに擦れ違ってしまうそうだった。が、ふと自分を見つめる眼を感じたらしく、涼子に顔を向けた。

文ちゃん。

涼子は笑いかけた。

あら。

文子は目を丸くして、次の瞬間には、口を開けたまま、顔色を変えた。

おばけが出た！

文子の代わりに、涼子が言ってやった。そして、文子が涼子にまだなにも言えずにいるうちに、笑いながら坂を駆け下りた。後ろを向くと、文子と、文子と一緒にの女や子どもたちも、涼子を呆気にとられた様子で立ちすくみ、見送っていた。

(エ) してやったり、と涼子は一人でくすくす笑いながら、坂下の海に勢いよく潜っていった。自分の蹴立てる海水の音が、涼子の耳もとに小気味よく響いていた。

(津島佑子「貝塚」による。)

問1 傍線部(ア)「涼子自身も、自分で言いながら、こわくて、逃げ出したくなっていたのだ」とは、どういうことか。次の①～⑤の中から最も適当な

ものを一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 罪のない文子に嘘を言って、彼女を困惑させている自分の性格の悪さにいたたまれなくなった。
- ② 命にかかわる重大な病気を平然と語っている自分が、自分ではないように感じて驚いた。
- ③ 医者も今の自分のように真実を告げていないのではと考えて、疑心暗鬼になってしまった。
- ④ 深刻なガン患者を演じているうちに、役が乗り移って本当にもう手遅れのような気がしてきた。
- ⑤ もしかしたらそうなる可能性もあった最悪の事態を想像してしまい、事の重大さに改めて気付いた。

問2 傍線部(イ)「文子は自分に言い聞かせるように、何度も頷きながら言った」とあるが、ここからうかがえる文子の心の動きについて、次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 涼子と特に親しい訳ではないが、嫌われたくもないのでとりあえず見舞いに行つて損はないだろう。
- ② 暇だとは言つたものの本当に予定が空いているか心配になつてきたが、問題ないだろう。
- ③ 見舞いに行くのは気が重いが、自宅に来られるよりは気が楽だし、近くだから何とかなるだろう。
- ④ 幸せな自分が見舞いに行くと、かえつて涼子を落ち込ませることになるのではないだろうか。
- ⑤ 見舞いに行くつもりはない、と本心を伝えるのも大人げないので適当に話を合わせてやり過ぎそう。

問3 傍線部(ウ)「わざわざ、死の匂いを嗅ぎに行くこともない」とあるが、涼子は見舞いに来なかつた文子の心をどのように想像したのか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 不治の病にかかっているという涼子を好奇心に駆られて見に行くのは、さすがに人間として恥ずかしい。
- ② 無事で健康な今の自分には、入院している涼子の姿を見ても本当に彼女の絶望を理解することはできない。
- ③ 病院で得体のしれない病原菌やウイルスに感染するかもしれない、あえて危険を冒してまで行く価値はない。
- ④ 死を覚悟しているらしい涼子の姿を見ると、今の自分が健康で幸せなだけに、罪悪感に苛まれてしまう。
- ⑤ 家庭を持つて健康でそれなりに幸せな自分の生活を守るために、少しでも不吉なものには関わりたくない。

問4 空欄 I に当てはまる四字熟語は何か。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 乾坤一擲 けんこんいつてい
- ② 心機一転
- ③ 急転直下
- ④ 面目一新
- ⑤ 臨機応変

問5 傍線部(エ)「してやったり」とはどういうことか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 。

- ① まんまと文子を騙だますことができ、痛快である。
- ② 文子の気持ちを読み切ることができて優越感で一杯である。
- ③ 文子の親子に恨みを晴らすことができ満足である。
- ④ 文子たちの楽しそうな雰囲気りゆうを台無しにできて溜飲りゅうが下がった。
- ⑤ 文子との蟠わたかまりをうまく解消することができてほっとした。

問6 この文章では、たびたび涼子が四千五百年頃前の海が迫っていた地形を想像することが書かれているが、その涼子の想像力はどのような効果をあげているか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 。

- ① 困難から安易に逃避してしまう人間の弱さを、現実的に生々しく感じさせる。
- ② 殺伐とした都会での生活から得られた教訓くつんを、寓話ぐわ的な手法で認知させる。
- ③ 現在の生活が過去の生活の土台の上に成り立っていることを、比喻によって理解させる。
- ④ 常識的な見慣れた日常世界を、いつのまにか異質な世界のように思わせる。
- ⑤ 土地が持つ超自然的な力を、日常の延長線上にできるだけ自然な形で感じさせる。

問7 二重傍線部「母親は溜息まじりに頷き返した」からは、どのような母親の心が読み取れるか。40字以上50字以内で書け(ただし、句読点を含む)。

解答は 。

第3問 次のA～Eのことわざについて、空欄 に当てはまる語を【語群】①～⑥の中から、意味を【意味】①～⑥の中から選べ。

解答番号は 22 31 。

A	「取らぬ <input type="text"/> 22 の皮算用」	意味 <input type="text"/> 23
B	「情けは <input type="text"/> 24 のためならず」	意味 <input type="text"/> 25
C	「濡れ <input type="text"/> 26 で粟 ^{あわ} 」	意味 <input type="text"/> 27
D	「暖簾 ^{のれん} に <input type="text"/> 28 押し」	意味 <input type="text"/> 29
E	「。ペン ^は <input type="text"/> 30 よりも強し」	意味 <input type="text"/> 31

【語群】

- ① 馬 ② 手 ③ 牛 ④ 狸 ^{たぬき} ⑤ 人 ⑥ 虎 ⑦ 剣 ⑧ 腕 ⑨ 拳 ^{こぶし} ⑩ 狼

【意味】

- ① 失敗にこりてしまつて、用心し過ぎること。
 ② 言論や思想は武力よりも世の人々を動かすことができる、ということ。
 ③ 少しも手ごたえや張り合いがないこと。
 ④ 良いことをすると巡りめぐつて自分に良い報いがかえってくる、ということ。
 ⑤ ほとんど苦勞もせず大もうけすること。
 ⑥ まだ決まっていないことをあてにすること。

第4問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

文芸家協会ニュースに、作家の健康という随筆がのっていた。要するに、体を大切にすぎで心臓病になったというのである。つまり運動不足が原因である。

大切にすることは使わないことではない。大切にすることは使うことなのである。体であれ、頭であれ、精神であれ、何であれ、大切にしなければ使うことである。

A

憂うつにとりつかれる人の考え方の誤りは、自分を使うことを自分を犠牲にすることと誤っていることである。これは逆で、自分を使わないことが自分を犠牲にすることなのである。

よく何かに集中できない人がいる。不安があるから集中できないのである。そして、自分を使ってこなかったから不安なのである。

犬も歩けば棒にあたるというが、とにかく活動することで何かにぶつかることが大切なのである。あることを軽んじると、次にいろいろのことが無意味に思えてくるものである。

B

暗殺されたロバート・ケネディは、スキーの時ゲレンデをすべることにさえ命をかけかねないようであったという。ライオンは小さい獲物をとるのにさえ、全力をつくすというのは有名である。

C

われわれのなかで、エネルギーの配分を考えねばならないほど活動している人はほとんどいない。またそういう人は憂うつになったり、何となくものさびしくなったりはしないものであろう。

D

活動するから元気になっているのであって、エネルギーがないから元気になれないのではない。エネルギーを使わないから気がめいってくるのである。

エネルギーの使い方を気にして計算している人は、自分にはエネルギーが少ないから計算しているつもりになっているが、決してそうではない。計算な

どという消極的なことをするから、エネルギーがなくなるのである。

E

使ったらなくなるものではなく、使えばふえるものである。

(加藤諦三『行動してみることで人生は開ける』による。)

問 空欄 A ~ E の中には、次の①~⑤のいずれかの文が入る。最も適当なものを一つずつ選べ。

解答番号は A 〓 32、B 〓 33、C 〓 34、D 〓 35、E 〓 36。

- ① いつも僕はこののだが、人間のエネルギーは貯金ではない。
- ② 自分を大切にするとすることは、自分を使うことである。
- ③ 日常のすべてのことに全力であたることを避けてはならない。
- ④ 活動的な人、意欲的な人というのは、決して小さいことをバカにしたりはしない。
- ⑤ 無気力になっている人は、エネルギーを使わないから衰弱しているのである。